

ラグビー部歌の生い立ち

松崎 伸一 (S57 OB)

松山東高等学校生徒手帳の応援歌集のページには、「松中ラグビー部歌」と「松山東ラグビー部歌」の歌詞が掲載されている。しかし、私が在籍した昭和54～56年度においては、このメロディーを聴く機会は一度もなかった。そこで、部歌の生い立ちについて調べてみた。

まず松中ラグビー部歌についてだ。明教第11号に、ラグビー部創立時同期会(昭和55年)が開催されたとの記事を見つけた。この記事には、『最後に、ラグビー部歌、二宮晋二先輩作詞「詩の国の古城の東、学びやに……中略……縞馬のごと広野をはせり」を合唱して散会した。』とある。草創期に二宮先輩が自ら作詞された部歌である。さらに生徒手帳には、作曲：山内とされている。作曲者の「山内」であるが、昭和初期に松山中学の教諭として在籍されていた山内先生となると、英語の山内一郎先生(S9.3～S21.2)が該当する。明教第14号「松中時代の思い出」徳永昭夫(S22)には、『音楽の時間は講堂で、英語の山内先生に教わった』との記述がある。また、現在調べがつかない範囲ではあるが、草創期の部員に山内姓はいない。これらの状況から判断すれば、この山内一郎先生が、松中ラグビー部歌の作曲者である可能性が高いと思われる。しかしながら、山内先生は昭和57年3月に逝去されており、ご本人に確認することはもうできない。松原洋先輩(S15)にお聞きしたところ、作曲者は山内一郎先生だろうとのこと。よって山内一郎先生作曲でまず間違いなさであろう。

次に、松山東ラグビー部歌である。生徒手帳には「松中ラグビー部歌の編曲」と記されている。私が初めてこの歌を聞いたのは、2002年1月1日ワシントンホテルで開かれたOB会だった。三輪田元敬さん(S36)と井上哲男さん(S53)から歌の披露があったものだ。井上さんは、かつて井手先生(S43)に教わったとか。私は、監督が井手先生から白石先生に替わる時に入学したのであるが、白石先生はラグビー部OBではなかったこともあり、部歌が現役の間で歌われることがなくなってしまったのであろう。しかしこの歌、正月OB会や関東OB会では、昭和30年代のOBの方々熱唱される。深い思い入れが私にも伝わってくる。そこでこの歌が作られた経緯を調べてみた。

- その答えは、明教第14号にあった。「焦土の青春座談会」には、
- 徳永** それからもう一つ、ラグビー部の歌がありましたね。「古城の下の学び舎に」という歌。
- 岡** あれは谷野予志先生が作詞したんでしょう。「炎天のもど角笛ひびけ」というやつ。それを江藤先生が作曲した。
- 小倉** いまの江藤先生の音楽の時間は歌わされるんで往生したな。

(記念誌WG注；江藤は江渡の誤字と思われる)

との記載があった。また、前出「松中時代の思い出」では、山内先生の後に江渡先生が来られ、中々のダンディな方で、「空の神兵」という落下傘部隊の歌などを、大変な美声で教えられた。以前からあったというラグビー部の歌詞に先生自ら作曲され、音痴の軍国少年達を相手に一所懸命に教えて下さった事もあった。

との記述を見つけた。谷野予志先生は(本名芳輝, S5.4～S22.3 英語)、江渡陽一郎先生は(S17.10～S22.2 音楽)である。谷野予志先生が草創期のラグビー部歌の歌詞を参考にして作詞され、これに江渡陽一郎先生が曲をつけられたと解釈できる。S23卒の丹下OB会長の記憶によると、入学した時には既に部歌はあったとのこと。また前出の徳永さん(S22)にお聞きしたところ、「あの歌は江渡先生が着任されてすぐに作られたものではないと思うが、私が入学して早い時期に出来ていたと思う」とのこと。すると、この歌が作られたのは昭和18年の可能性が高い。ということは、この歌は松中ラグビー部歌の編曲ではなく、松中ラグビー部歌(二代目)なのである。

しかしこの歌、昭和20年代半ばにはあまり歌われていなかったようである。学制改革の影響かも知れない。その後、昭和29年に復活を遂げる訳であるが、その経緯について、ラグビー部OBの南部通志さん(S30)に聞いてみた。以下、南部さんのコメントを要約すると、

- ・戦争で死んだ兄の遺品の中に松中ラグビー部歌の楽譜を発見した。
- ・私が2年の3学期、2月頃3年生でキャプテンの三輪田綱

丸さんのお宅(久米駅そばのお寺)でミーティング(酒盛り)をした時に三輪田さんがオルガンをひいて下さって皆で歌った。我々が編曲したものではない。

- ・その後何回か練習を重ねて、その年の3月の卒業生を送る会でラグビー部全員でステージで歌った。

とのことである。南部さんのお兄さんは南部鉄雄さん(S13卒)である。松中のラグビー部にも所属されていたようであり、大学(東京農大)時代にもラグビーをしていたとか。昭和17年には大学を卒業して海軍予備学生として入隊。昭和19年6月に戦争でお亡くなりになったそうである。お兄さんの遺品の中にあつた楽譜について、南部さんはこう語る。

- ・黄色っぽい表紙のラグビー部誌のようなものに掲載されていたけれど、その発行年度は分からない。
- ・「明教」のような同窓会報だったかも知れない。
- ・兄の戦死についての追悼文が掲載されていたような気もするので、兄の友人が戦死の追悼文を書いて同窓会報かラグビー部誌に掲載して遺族に届けてくれたものかもしれない。

今回、75周年を迎えるにあたり、部の歴史を後世に伝えるため、部歌の楽譜おこしを試みた。先の楽譜があれば、楽譜おこしをする必要はないのであるが、残念ながら現在までの調査では見つけられていない。昭和30年代の方々に歌っていただいた録音を元に、楽譜におこした。歴史を最大限に尊重し、できる限り正確に楽譜おこしをしたつもりである。しかし記憶頼りの作業であるため、記憶の不正確さが伴う。多少のぶれはお許し願いたい。

歌詞についてもいくつか歴史のあいまいさが存在する。南部さんはこう語る。

- ・2番の歌詞のユニフォームの色だが兄の遺品では「紺」となっていたのを我々は初めから「縞」に変えて歌っていた。全員で歌うため「縞のユニフォーム」としてガリ版(謄写版)印刷で何枚か作って配った筈だ。

松中・東高のジャージの色が紺であった時代は、現在わかっている範囲では昭和24年のみである。この時代にあの歌詞が作られたとすると、遺品と時代が合わない。もしかすると昭和17年頃にも紺の時代があったのかもしれない。歌詞については2006年4月のOB会役員会でも議論され、①75年の歴史の中で紺であった時代は短いこと、②二宮晋二先輩による歌詞の中に臙脂と黄と記されていること、から今後は、草創期からの伝統である臙脂と黄色の縞との整合をとるため、「縞のユニフォーム」とすることとされた。

また、生徒手帳では「湧き出る力」とされている箇所。明教第14号「松中時代の思い出」徳永昭夫(S22)では、「あふるる力」とされている。OBの記憶も両派に分かれる。しかし、今となっては、どちらが正しいか確かめるすべもない。とりあえず、本記念誌においては、生徒手帳に準拠して「湧き出る力」を採用した。

以上の事柄を最後にまとめておく。

- ①部草創期に、二宮晋二先輩作詞、山内一郎先生作曲でラグビー部歌が作られた。
- ②昭和18年頃、初代ラグビー部歌の歌詞を参考にして、谷野予志先生が二代目部歌の歌詞を作詞され、これに江渡陽一郎先生が作曲された。(音楽の授業でも歌われたため、ラグビー部員以外でも知っている卒業生が多い)
- ③昭和20年代半ばは、学制改革の影響によるのではないかと思われるが、部歌が歌われることはほとんどなかったようである。
- ④昭和29年2月、南部鉄雄さんの遺品&三輪田綱丸さんのオルガンにより部歌復活。
- ⑤その後、昭和50年代初めまでは現役の間でも部歌が引き継がれていった。
- ⑥昭和50年代半ば以降は、生徒手帳に歌詞が記されるのみで、歌われることはほとんどなかった。
- ⑥2006年、75周年記念事業の一環として部歌復活。谷口真也さんの編曲(楽譜おこし)による。

今回、楽譜おこしいただいた谷口真也さん(H15東高卒、国立音楽大学作曲科)、および部歌録音にご協力くださった山本修平さん(S41東高卒、父君&ご子息がラグビー部OB)には大変お世話になりました。記して感謝申し上げます。なお、今後もかつての楽譜が残っていないか調査を継続し、発見されれば、それも考慮して部歌のアレンジを再検討したいと考えています。